

(様式第1号)

平成30年 5月 2日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 様

領域名： 認定介護福祉士養成研修導入

科目名： 認定介護福祉士概論

単位数： 1

認証申請する研修の名称： 認定介護福祉士養成研修

団体名： 公益社団法人

日本介護福祉士養成施設協会

群馬県介護福祉士養成校協議会

一般社団法人 群馬県介護福祉士会

団体事務所： 〒371-0823

〒371-8525

の所在地 群馬県前橋市川曲町 191-1

群馬県前橋市新前橋町 13-12

電話： 025-253-0294

027-255-6226

FAX： 027-254-0294

027-255-6173

E-mail： shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者： 鈴木 利定 ㊞

団体代表者： 小池 昭雅 ㊞

申請責任者： 白井 幸久

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成30年 5月2日
申請団体名	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 群馬県介護福祉士養成校協議会 一般社団法人 群馬県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	鈴木 利定 小池 昭雅
申請責任者職名 申請責任者氏名	群馬医療福祉大学 短期大学部 教授 白井 幸久
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 群馬県介護福祉士養成校協議会 〒371-0823 群馬県前橋市川曲町 191-1 Tel : (025)-(253)-(0294) Fax : (027)-(254)-(0294) E-mail <u>shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp</u> 一般社団法人 群馬県介護福祉士会 〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町 13-12 Tel : (027)-(255)-(6226) Fax : (027)-(255)-(6173)
申請対象の領域	領域名 : 認定介護福祉士養成研修導入
科目名 (単位数)	科目名 : 認定介護福祉士概論 (1 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認定介護福祉士養成研修導入	
科目名	認定介護福祉士概論	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修全体の導入として、認定介護福祉士に求められる役割、本研修で獲得すべき知識、実践力と、本研修全体の組み立てについて理解する。 ・介護現場の様々な問題はなぜ起きるのかについて、介護観・支援目標の共有化など、チームの運営の視点で把握するとともに、自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践する事の必要性を理解する。 ・自ら考える力・学ぶ力の重要性を改めて確認する。 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認定介護福祉士養成研修の体系を理解し、学習計画を立てる ・認定介護福祉士に求められる役割と実践力について説明できる。 ・介護現場でおきる問題について、チーム運営の視点で分析できる。 ・自立を支援するために根拠に基づいた介護を実践することの必要性を説明できる。 ・自分自身の価値感が自らのリーダーシップにどのように影響しているのかを自覚する。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>(1) 認定介護福祉士の社会的使命と介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護をめぐる社会的動向（地域包括ケアシステムと医療・介護連携）と介護福祉士の役割の変化 ・認定介護福祉士に求められる役割と実践力（根拠ある生活支援 <p>(2) 介護現場における様々な問題とその要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職種間または組織間に起こりやすい問題 ・利用者への関わり方や介護観の相違により起きる問題 <p>(3) チーム運営と職種間連携求められるリーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームを構成する職種間連携、各職種の役割・機能の理解 ・チームケア・チームアプローチとは何か ・チームにおける介護観・援助目標の共有化 ・チーム内・職種間の調整 ・チームメンバーとのコミュニケーション 	<p>(1) 講義 3 時間(内 1 時間は演習) レポート 2500～3000 字 介護サービスを要とする高齢者等の生活支援に関わる介護の「質的向上」が求められており、それは介護が専門性を有することを意味している。わが国における実情を踏まえ認定介護福祉士の社会的使命の課題となっていることを学ぶ</p> <p>(2) 講義 3 時間(内 1 時間は演習) 事前レポート 1500 字 事後レポート 1500 字 1) まず受講生から職種間及び組織間に起こりやすい問題を事前レポートで抽出し、その後それらを基に話し合いながら要因分析しその解決策を見出す。この過程を通じて普遍的な理論を導くようにする。 2) 利用者との関わり関わり方について 2 つの側面から学ぶ。1 つは利用者への関わり方の基本的な課題の確認で、価値・知識・技術について確認する。2 つめは認定介護福祉士が身につけている介護職の自己覚知である。これを事後のレポートテーマとする。</p> <p>(3) 講義 2 時間 レポート 2500～3000 字 介護は施設・居宅サービスの両者を含めて社会の組織としての役割・機能を有している。その組織が円滑に運営されるための基本的要件を学ぶ。そのなかでも特に「方針の共有化」を取り上げ、方針を共有することの意味、重要性について学ぶ</p>
研修方法	<p>■ 通学課程（集合研修）</p> <p>■ 通信課程（通信研修）</p> <p>* 集合研修は講義と演習を組み合わせ実施する</p> <p>* 課題学習は事前・事後にレポート課題を課し、担当教員が評価する。</p>	

研修時間	15 時間（集合研修 8 時間、課題学習 7 時間）
修了要件	<p>1. 当該科目の対面授業の全課程に出席していること。 （出欠席・遅刻・早退の取り扱いは別紙4のとおり）</p> <p>2. 事前・事後レポート、計画書等の提出の指示がある科目の場合、提出期限内に提出し合格していること。</p> <p>3. 当該科目が示す修了評価において、C評価以上であること。 * 修了評価について 筆記試験及びレポート試験の評価は別紙 5 の評価基準を用いて実施する。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<p>* 当該科目における十分な知識、専門性を有し、講師等の教育経験がある者</p> <p>* 補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師などの教育経験がある者</p>
(2) 受講者について	
受講対象（受講要件）	<p>(1) 次のア～ウを満たしていること。 ア 介護福祉士取得後の実務経験 5 年以上(実務経験の考え方は介護福祉士国家試験の受験資格に準ずる) イ 介護職員を対象とした現任研修の受講歴として、100 時間以上の履歴を有していること。 ウ 研修実施団体の課外レポート課題又は受講試験において一定水準の成績を修めていること。但し機構の定める研修を修了している場合は免除する。</p> <p>(2) 次のエ又はオを満たす事が望ましいこと。 エ 介護職の小チーム(ユニット等、5～10 名の介護職によるサービス提供チーム)のリーダー、サービス提供責任者等)としての実務経験を有すること。 オ 居宅、居住(施設)系サービス双方での生活支援の経験があること。</p>
修了評価（習得度、研修成果）	*到達目標に達しているかをレポート試験及び筆記試験を実施し、別紙 5 の評価基準に照らして実施する。
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	<p>30 名(講師 1 名) 演習時も同一の講師が行う。</p> <p>* 講師 1 名。補助講師(ファシリテーター)の配置については、当該講師の授業運営に応じ、適切に配置する。</p> <p>* 尚、その際には当該講師が意図したことを理解し、適切な介入ができる能力を有する者であり、受講生 8～10 名に対し 1 名を置くものとする。</p>
開催場所（都道府県）	群馬県

コマシラバス 対面授業 8回分

回数	科目名 (回ごとの項目)	時間(分)	内容
1	認定介護福祉士に求められる役割と実践力 (根拠ある生活支援)」	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを要とする高齢者等の生活支援とは何か ・認定介護福祉士の専門性とは何か ・生活支援に関わる介護の「質的向上」と介護福祉士の役割の変化 ・介護に求められる「質的向上」とは
2	介護をめぐる社会的動向と 認定 介護福祉士の役割 (地域包括ケアシステムと医療・介護連携)	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国における実情を踏まえ認定介護福祉士の社会的使命の課題について ・地域包括ケアシステムにおける介護職の意義と役割とは ・チームアプローチの技法と基本課題 ・地域包括ケアシステムを見据えた医療・介護連携とは
3	演習 1 講義 1.2 を踏まえ、事例を活用した演習	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実態と国家の理念及び法制度に基いている事を事例から論証 ・関係専門職が生活の場面で連携・協働している現状と課題
4	介護現場における 認定 介護福祉士が直面する諸問題	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・チームリーダーの役割・機能について事例から論証 ・事例より共通因子を括り出し普遍的な考え方を導く ・理念・法則から個別の事例への解決につなげる考え方・方法について論議
5	介護実践における諸問題	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との人間関係の形成、人間理解、自立への意欲等に関わるコミュニケーションの考え方、方法 ・介護職の自己覚知の重要性
6	演習 2 講義 3.4 を踏まえ、提出されたレポートの活用	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・現実を理解し合った上で、問題解決の妥当性の根拠について講義の理論を理解し実践能力として身につけなければならない事を身につけるように演習
7	介護における社会組織としての機能と役割	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の複合的で多様性のあるニーズに対応するための医療・介護等の各専門職チームの構成と統合 ・チーム運営の為のリーダーシップ
8	理念・方針の共有化	60分	<ul style="list-style-type: none"> ・チームメンバーの役割・機能の明確化 ・チームの共通理念・目的・計画とは ・チームの組織化とコミュニケーション

(別紙 3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等（届出事項）

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 30 年 9 月
	②
	③
開催場所（会場）	① 群馬医療福祉大学 前橋キャンパス
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>講義名 「認定介護福祉士概論」</p> <p>担当講師 黒澤 貞夫 氏 (群馬医療福祉大学大学院 教授)</p> <p>(職歴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立伊東重度障害者センター所長 ・ 東京都豊島区立特別養護老人ホーム 高齢者在宅サービスセンター施設長 ・ 岡山県立大学保健福祉学部教授 ・ 浦和短期大学教授 ・ 弘前福祉短期大学学長 ・ 浦和大学・浦和短期大学部学長を歴任 <p>(講師、研究活動等)</p> <p>2003 年 日本介護福祉学会 会長</p> <p>2008 年～ 日本生活支援学会 会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 介護福祉指導教育推進機構 代表理事
	<p>主な著書</p> <p>「リハビリテーション論」（編著）川島書店、1992 年</p> <p>「障害者福祉論」（編著）相川書店、1993 年</p> <p>「社会福祉士実践事例集」（日本社会福祉士会編の分担執筆）中央法規出版、1994 年</p> <p>「ヒューマンサービス実践への道」川島書店、1995 年</p> <p>「事例でみる・学ぶ 福祉実践演習ブック」中央法規出版、1995 年</p> <p>「ケアの理論とケアプランの実践—新しいケアの考え方—」中央法規出版、1997 年</p> <p>「事例で学ぶケアプラン作成演習」（編著）一橋出版、2000 年</p> <p>「生活支援の理論と実践」中央法規出版 2001 年</p> <p>「ケアサービスの記録法」（編著）一橋出版 2003 年</p> <p>「介護実習」（編著）建帛社 2004 年</p>

	<p>「介護実習指導」（編著）建帛社 2004 年</p> <p>「生活支援学の構想—その理論と実践の統合を目指して—」川島書店 2006 年</p> <p>「ICF をとり入れた介護過程の展開」（共編著）建帛社 2007 年</p> <p>「人間科学的生活支援論」ミネルヴァ書房 2010 年</p> <p>「福祉に学び、福祉に尽くす:福祉実践・研究・教育の視点から」中央法規 2013 年</p> <p>「介護福祉教育原論:介護を教えるすべての教員へのメッセージ」（共著）日本医療企画 2014 年</p> <p>「介護は人間修行」日本医療企画 2016 年</p>
	<p>担当する課題等</p> <p>修了評価</p> <p>黒澤 貞夫 氏（群馬医療福祉大学大学院 教授）</p> <p>履歴等は同上</p>
(3)実施体制	
<p>研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)</p>	<p>認定介護福祉士養成委員会(13 名)</p> <p>群馬県健康福祉部 介護高齢課 1名(オブザーバー)</p> <p>群馬県介護福祉士養成施設協会 1名</p> <p>群馬県介護福祉士会 1名</p> <p>群馬県老人福祉施設協議会 1名</p> <p>群馬県老人保健施設協会 1名</p> <p>群馬県地域密着型サービス 連絡協議会 1名</p> <p>群馬医療福祉大学 2名</p> <p>短期大学部(事務局) 2名</p> <p>運営担当 群馬医療福祉大学 短期大学部 3名</p> <p>・研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。</p> <p>・研修委員会のメンバーは研修の補助を行いつつ、研修内容の整合や新たに含むべき内容があるかなど、研修見直しの一助も担う</p>
<p>研修の企画運営に関する 諸規程</p>	<p>研修委員会設置要綱</p>
<p>研修管理責任者職名</p>	<p>群馬医療福祉大学 短期大学部 教授</p>
<p>研修管理責任者氏名</p>	<p>白井 幸久</p>
<p>機構問合せ先部署</p>	<p>群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局</p>
<p>機構問合せ先担当者氏名</p>	<p>矢嶋 栄司</p>
<p>機構問合せ先電話番号/FAX</p>	<p>電話 027-253-0294 / FAX 027-254-0294</p>
<p>機構問合せ先 e-mail アドレス</p>	<p>shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp</p>
<p>受講問合せ先部署</p>	<p>群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局</p>
<p>受講問合せ先担当者氏名</p>	<p>矢嶋 栄司</p>
<p>受講問合せ先電話番号/FAX</p>	<p>電話 027-253-0294 / FAX 027-254-0294</p>
<p>受講問合せ先 e-mail アドレス</p>	<p>shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp</p>
(4)研修履歴の管理体制	
<p>受講者への付与単位部門</p>	<p>群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局</p>
<p>受講履歴の管理方法</p>	<p>*紙媒体及びデータによる台帳管理する。 *外付けディスクにバックアップデータを保管する。 *データの保存期間は10年間とし、その後は外付けディスク</p>

	クにてデータを保管する。 *個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、認定介護福祉士養成委員会により修了証書を発行する。
管理責任者氏名	白井 幸久
管理担当者氏名	矢嶋 栄司